

黄色ブドウ球菌菌血症に対する Xpert MRSA/SA BC の有用性

◎水田 加奈子¹⁾、林 秀幸¹⁾、尾田 一貴²⁾、横山 俊朗¹⁾、山本 景一¹⁾
 熊本大学病院中央検査部¹⁾、熊本大学病院薬剤部²⁾

【はじめに】黄色ブドウ球菌(以下 *S.aureus*)菌血症において MRSA 関連因子(*mecA*, *SCCmec*, *spa*)を早期に検出することは、適切な抗菌薬使用への重要な情報となる。当院では、血液培養液中の MRSA 関連因子を約 1 時間で検出可能である Xpert MRSA/SA BC 「セフィエド」(以下 GX)を 2020 年 1 月より導入した。【目的】抗菌薬適正使用の一環として、MRSA に対する抗 MRSA 薬の早期投与ならびに MSSA に対する不要な抗 MRSA 薬の投与回避を目的とし、当院における *S. aureus* 菌血症に対する GX の有用性について検討する。【方法】2019 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日までの期間中、血液培養陽性時のグラム染色にてブドウ球菌を疑うグラム陽性球菌を認めた症例 260 例(重複患者は除外)を対象に、GX 未実施群と実施群に分けて *S. aureus* に対する抗 MRSA 薬使用状況について比較し、抗 MRSA 薬適正使用を評価した。適正使用の判定基準は、MRSA において①抗 MRSA 薬投与開始が感受性結果報告より早期だった場合、②血液培養陽性報告以前より投与継続していた場合、また、MSSA において③抗 MRSA 薬投与中止が感受性結果報告よ

り早期だった場合、④未投与の場合とした。

【結果】転院・死亡例を除き、*S. aureus* が同定されたのは 75 例(MRSA : 23 例、MSSA : 52 例)であった。GX 未実施群の *S. aureus* 菌血症 38 例に対する抗 MRSA 薬適正使用は 22 例(57.9%)であり、GX 実施群は 37 例中 33 例(89.2%)であった(図 1)。(P 値<0.05)

		GX 未実施群(38 例)		GX 実施群(37 例)	
		MRSA(12 例)	MSSA(26 例)	MRSA(11 例)	MSSA(26 例)
抗 MRSA 薬使用状況	適正	9 例(75.0%)	13 例(50.0%)	11 例(100.0%)	22 例(84.6%)
	22 例(57.9%)		33 例(89.2%)		
不適正	3 例(25.0%)	13 例(50.0%)	0 例(0.0%)	4 例(15.4%)	
	16 例(42.1%)		4 例(10.8%)		

図 1. *S. aureus* 菌血症における抗 MRSA 薬使用状況

【考察】特に MSSA に対する抗 MRSA 薬使用回避の影響が大きいと考えられた。【結語】GX 導入により、*S. aureus* 菌血症に対する抗菌薬適正使用に大きく貢献できた。【連絡先】熊本大学病院 096-373-5696